

Nihonbashi Opera Tokyo 2025

T O S C A

Giacomo Puccini



Saturday, May 3, 2025 Oji Hall Tokyo

日本橋オペラ 2025

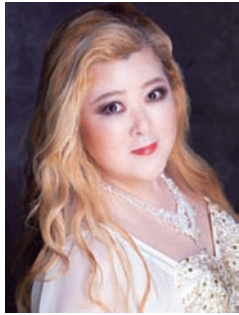
歌劇「トスカ」 全三幕

ジャコモ・プッチーニ



日本橋オペラ
NIHONBASHI
OPERA TOKYO

2025年5月3日(土) 王子ホール



福田祥子

日本橋オペラ研究会(中央区社会教育団体)会長
一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長

ご挨拶

本日は、日本橋オペラ 2025 歌劇「トスカ」にお越し頂きありがとうございます。
日本橋オペラの常箱である日本橋劇場の改修工事に伴い、昨年はベートーヴェン「レオノーレ」を銀座ブロッサムで日本初演しました。そして本日はリサイタルホールとして知られる、こちら王子ホールでプッチーニ「トスカ」を上演します。

日本橋オペラの公演は通常、前日に舞台設営をして、いわゆるゲネラルプロベ (GP) を行いますが、今回は会場の都合で、当日のみの仕込みで本番を行います。それに伴い、合唱なし、字幕なし、簡易照明などの、セミステージ形式で上演します。字幕に関しては、最近の公演ではかなり普及していますが、これも賛否両論あり、内容が解って良いという反面、舞台に集中できないから邪道という意見もあります。久しぶりに字幕のないオペラも、逆に新鮮と思って頂けたら幸いです。

さて「トスカ」は、ちょうど一年前に私たちが上演した「カヴァレリア・ルスティカーナ」と同様に、ヴェリズモオペラと言われます。ヴェリズモ (Verismo) は現実主義と訳される、19 世紀から 20 世紀初頭の文学からはじまった新思潮で、演劇、そしてオペラへと拡大しました。「カヴァ」が、シチリアの小さな村の民衆の日常を舞台とする一方、「トスカ」の主演 3 人は、トスカ／オペラ歌手、カヴァラドッシ／画家、スカルピア／警視総監という、いわばエリートであり、舞台も、第 1 幕／聖アンドレア・デラ・ヴァレ教会、第 2 幕／ファルネーゼ宮殿、第 3 幕／サンタンジェロ城と、全て現存するローマの観光ツアーかと思わせる名所です。また「トスカ」は、ヴェリズモの真骨頂である残酷な場面が、2 幕フィナーレのトスカによるスカルピアの刺殺、終幕のカヴァラドッシの銃殺と、2 回もあるドラマチックなオペラです。

日本橋オペラでは 2016 年にもトスカを上演していますが、私自身その後ブルガリアで何回かトスカを歌わせていただきました。その時の公演では、ブルガリア人以外にも世界中からソリストが集まり、指揮者打合わせ、演出打合せ、GP、本番と 4 日ほどで完結しました。ですから、もしも私が日本橋オペラで歌っていなかったら、ヨーロッパで歌う機会もなかったかと思います。本日は私がヨーロッパで得たトスカの雰囲気と、初役の歌手の、これから世界で歌うための稽古の成果をお楽しみ頂けたら幸いです。

なお、本年 11 月 14 日(金)次回の公演として、2 人の大作曲家ウェーバーとマーラーの共作オペラ「3 人のピント」の日本初演を日本橋劇場で予定しています。

一般社団法人日本橋オペラ研究会顧問

馬淵明子氏：美術史家、日本女子大学名誉教授、ジャポニズム学会会長。これまで、国立西洋美術館館長、(独)国立美術館理事長、文化審議会委員、日本女子サッカーリーグ理事長などを歴任

田隅靖子氏：ピアニスト、京都市立芸術大学名誉教授、元京都コンサートホール館長、京都府文化賞特別功労賞受賞

高松富二子氏：国際ソロプチミスト宝塚会長、高松コンストラクショングループ取締役名誉会長

高松孝之氏夫人

岡田恭芳氏：医師、医学博士、医療法人愛育会理事長、聖マリアンナ医科大学臨床教授

シュテファン・メラー氏：ピアニスト、指揮者、前ウィーン国立音楽大学教授、ウィーン・ワグナー音楽院教授、ウィーン国際ピアニスト協会会長

木村 啓氏：弁護士、ニューヨーク州弁護士、弁護士法人第一法律事務所パートナー



福田祥子 (Shoko Fukuda) 演出・ソプラノ／トスカ役

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。東京二期会オペラ研修所本科首席修了、優秀賞受賞。これまで、神々の黄昏、トリスタンとイゾルデ、アイーダ、椿姫、オテッロ、蝶々夫人、トゥーランドット、トスカ、オネーギンなど 30 作品以上のオペラに主役級の配役で出演。『圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ』(音楽現代)『輝かしい高音』(音楽の友)と批評を受ける。本格的ワグナーソプラノでありながら、ヴェルディ、プッチーニといったイタリアオペラまで、広範囲のレパートリーを有する、日本人としては稀有の存在。ウィーンとバイエルンの両国立歌劇場で研修を受け、スタラ・ザゴラ国立歌劇場(ブルガリア)などに度々出演、絶賛されている。また、世界中でリサイタルやオーケストラと共演をしている。近年では、日本橋オペラ「日本初演のオペラ」シリーズに、主演・演出家・製作者として参画、学術的にも高く評価されている。さらに国際声楽コンクールの審査員、また「お母さんコーラス全国大会 2024」の選考委員をつとめるなど、活躍の場を広げている。東京二期会、関西二期会各会員。一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長。



佐々木 修 (Osamu Sasaki)／指揮

青森県出身。武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生。カラヤン、チェリビダッケなどの巨匠に師事。モーツァルト音楽大学指揮科最優秀卒業。同大学講師・常任指揮者をつとめる。1979 年カラヤン国際指揮者コンクール入賞。1982 年東洋人として初めてザルツブルク国際モーツァルト週間で指揮「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」と絶賛され、国際モーツァルト財団よりバウムガルトナーメダルを授与される。1984 年ベルリン・ドイツ響を指揮して、歴史あるリアス新人演奏会に出演。帰国後、日本各地のオーケストラや合唱を指揮。また NHK-FM のパーソナリティ、タモリの音楽は世界だ!等の音楽番組制作、映像・CD・WEB 制作、AI 特許、女性のためのモバイルコンテンツ「ルナルナ」の創設、開発に携わるなど、マルチなタレントで活躍。(株)マエストロ代表取締役。日本橋オペラ常任指揮者。一社)日本橋オペラ研究会理事。



追川礼章 (Ayatoshi Oikawa)／ピアノ

1994 年生まれ。埼玉県立浦和高等学校卒業後、東京藝術大学楽理科を経て同大学大学院ソルフェージュ科を修了。2 歳からヤマハ音楽教室で学び、6 歳から作曲を始める。現在は歌手の伴奏をメインに全国各地で演奏活動を行う。室内楽ではこれまでにミュンヘンフィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター、ローレンツ・ナストゥリカ氏、NHK 交響楽団のメンバーらと共演を重ねる。テレビ朝日《題名のない音楽会》を始めとする TV・ラジオにピアニストとして多数出演。これまで作編曲 & ピアノで参加した CD の多くがメジャーレーベルから発売されており、2022 年には NHK ラジオ深夜便の歌として自身が作曲、小椋佳が作詞した林部智史「花に約束」が選ばれる。

松村英行 (Hideyuki Matsumura) テノール／カヴァラドッシ役



東京芸術大学音楽学部声楽科及び同大学院オペラ科修了。ミラノ他留学。発声法を中心に学ぶ。ジャン・フランコ・パスティネ、カルロ・メリチャーニ、ジャンニ・ライモンディの各氏に師事。第 41 回日伊コンコルソ入選。ドン・ジョヴァンニのタイトルロールでオペラデビュー。宮本亜門のコズィ・ファン・トゥッテ (グリエルモ)、新国立劇場ドン・カルロ、東京オペラプロデュース、ヴァンパイア (日本初演・ロスシー侯爵)、蝶々夫人 (シャープレス)、NHK・BS「マダム・バタフライ」(シャープレス)、2006 年バリトンからテノールに転向。二期会オテロ (オテロカヴァー及びロデリーゴ)、ナブッコ (イズマエーレ)、マクベス (マクダフ)、N・サンティ N 響オペラ定期アイダ (エジプトの使者)、シモン・ボッカネグラ (射手隊長)、東京オペラプロデュース ラ・フィアンマ (日本初演・ドネッロ)、戯れ者の饗宴 (日本初演・ジャンネット)、などに出演。日本人離れした声量と張りのある声で観客を魅了した。サントリーブルーローズ、エプタザールなどでのコンサート企画出演などでも活躍。

女声合唱団コールエプタ指揮者。YouTube/ テノール松村英行のまっちゃんねる

オフィシャルウェブサイト <https://tenor-matsumura.ciao.jp/>

寺田功治 (Koji Terada) バリトン／スカルピア役



東京音楽大学付属高等学校、同大学声楽演奏家コース卒業。ギルドホール音楽演劇学校大学院修士課程オペラコース修了。ネザーランド・オペラ・スタジオ研修生修了。小澤征爾音楽塾、セイジ・オザワ松本フェスティバルに参加。ブリティッシュ・ユース・オペラ「ラ・ボエーム」マルチェッロ、ウェックスフォード・フェスティバル・オペラ「ジャンニ・スキッキ」公証人、「ナヴァルの女」ブスタメンテ、「サイレント・ナイト」英国中佐役等を務める。團伊玖磨「夕鶴」運ず役、東京文化会館主催「ショパン」エリオ役出演。全日本学生音楽コンクール全国大会第 1 位、日本音楽コンクール声楽部門第 2 位など国内外のコンクールで多数受賞。ロームミュージックファンデーション、ギルドホール音楽演劇学校等の奨学金を授受。

奥村泰憲 (Yasunori Okumura) バリトン／アンジェロッティ役



広島少年合唱隊出身。エリザベト音楽大学宗教音楽学科卒業、同大学院修了後、セルビアとルーマニアに短期留学。広島市立小学校勤務を経て 2005 年よりウィーン国立音楽大学声楽科、プライナー音楽院指揮科・オペラ科で研鑽を積む。2006 年ウィーンでシュッツ「マタイ受難曲」イエス役でソリストデビュー、また同地でグルック「トーリードのイフェジェニー」トアス王を歌いオペラデビュー。フランス、デンマーク、マケドニア、オーストリア、ドイツで独唱会。「天地創造」「第九」「カルミナブラーナ」などソリストを多数務め、オペラでは「魔笛」「ラ・ボエーム」「カルメン」「道化師」など 50 以上の役を演ずる。また専門の宗教曲のほか「ドン・カルロ」「蝶々夫人」他多くのオペラを指揮する。シェーンベルク合唱団、BCJ の公演や録音に参加。2012 年帰国。現在バリトン、アルト、指揮者として活動。13 の団体を指導。東京大学音楽部講師。

香月 健 (Takeshi Katsuki) バリトン／堂守役



東京都出身。桐朋学園大学音楽学部演奏学科声楽専攻。同大学研究科修了。2003 年よりイタリアに渡り、フランチェスコ・エッレロ＝ダルテーニャ氏のもとで、後にフロジノーネのリチーニオ・レフィチェ音楽院においてシルヴィア・ラナッリ氏のもとで研鑽を積む。「フィガロの結婚」伯爵、「コジ・ファン・トゥッテ」グリエルモ、「魔笛」弁者、「愛の妙薬」ベルコーレ、「シモン・ボッカネグラ」パオロ、「椿姫」ジェルモン、「ドン・カルロ」ロドリーゴ、「カルメン」エスカミーリョ、「ジャンニ・スキッキ」ジャンニ、「バリアッチ」シルヴィオ、「ヘンゼルとグレーテル」ペーター、「電話」ベン他に出演。邦人作品にも、團伊玖磨「夕鶴」運ず、松井和彦「泣いた赤鬼」青鬼、木下牧子「不思議の国のアリス」笑い猫、池辺晋一郎「てかがみ」杉本などに出演。東京二期会公演「ジャンニ・スキッキ」「蝶々夫人」「椿姫」に出演。ベートーヴェン「交響曲第 9 番」、ヘンデル「メサイア」他宗教曲等のソリストも務める。合唱指導・指揮者。二期会会員。



中野智貴 (Tomoki Nakano) テノール／スポレッタ役

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。同大学大学院オペラ研究領域修了。在学中、給費奨学生に選出。東京二期会オペラ研修所、第 62 期マスタークラス修了。修了時、優秀賞及び奨励賞受賞。二期会オペラ劇場「メリー・ウィドー」カミーユ役アンダー・スタディに抜擢される。東京音楽大学創立 111 周年記念公演「ボエーム」ロドルフォ役を歌う。2019 年イタリア、サンタ・チェチーリア音楽院サマーアカデミーに参加。「ボエーム」ロドルフォ役他を歌い、ディプロマ取得。二期会会員。



服部聖人 (Masato Hattori) バリトン／シャルローネ役 & 看守役

声楽を佐藤泰弘、故日比啓子の諸氏に師事。これまでに「カルメン」モラレス役、「リゴレット」マルッロ役、「アンドレア・シェニエ」フレヴィル、フーキエ・タンヴィル役、「マノン」プレティニー役、「道化師」シルヴィオ役を務める。また、トアサマリ名義にて漫画作品や絵を制作。



伊藤いずみ (Izumi Ito) ソプラノ／羊飼役

東京都出身。洗足学園音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第 41 期修了。声楽を須永尚子、佐藤亜希子、南條年章の各氏に師事。オペラではこれまでに《魔笛》侍女Ⅱ役、《ジャンニ・スキッキ》ラ・チェスカ役、《修道女アンジェリカ》托鉢修道女Ⅱ役、《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ役などに出演。藤原歌劇団準団員・日本オペラ協会準会員。

平井哲夫 (Tetsuo Hirai) クラリネット

尚美学園大学卒業。在学中、学内コンクールにおいて第一位を獲得。スパーク作曲「クラリネット協奏曲」を録音。ヤマハ新人演奏会、読売新人演奏会等に出演。現在、オーケストラ・室内楽等で活躍をしている。

天野佳和 (Yoshikazu Amano) 打楽器

兵庫県出身。武蔵野音楽大学器楽科卒業。東京交響楽団の打楽器奏者として長年勤務。

アマチュアオーケストラの指導など、幅広く活動。東京交響楽団団友。

歌劇「トスカ」

作曲：プッチーニ（伊/1858-1924）

初演：1900年1月14日

ローマ・コンスタンツィ劇場

台本：伊語/イリカ、ジャコーザ

時と場所：1800年6月　ローマ

登場人物：

●フローリア・トスカ/有名な歌手/

福田祥子/ソプラノ

●マリオ・カヴァラドッシ/画家/

松村英行/テノール

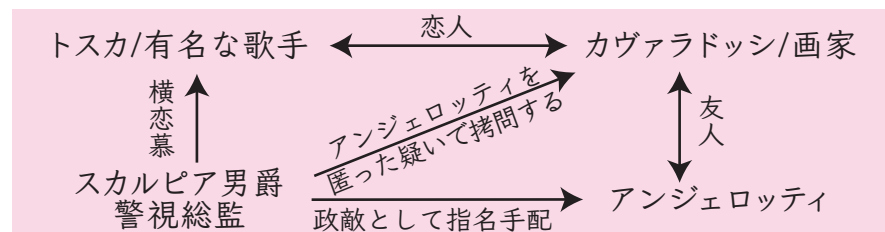
●スカルピア男爵/警視総監/寺田功治/バリトン　●アンジェロッチ/奥村泰憲/バリトン

●堂守/香月 健/バリトン　●スポレッタ/警察官/中野智貴/テノール

●シャルローネ/憲兵/看守/服部聖人/バリトン　●羊飼い/伊藤いずみ/ソプラノ



コンスタンツィ劇場（現在のローマ歌劇場）



プロローグ：

ナポレオンの進軍により、1798年2月ローマ共和国が成立。この共和国で執政官をしていたのがアンジェロッチだった。ところがこの国は1年半と持たず、オーストリア軍とナポリ王国によって崩壊。1800年6月には、ローマ法王領へと逆戻り。アンジェロッチは、政治犯として捕らえられてしまう。

アンジェロッチが脱獄して聖アンドレア・デラ・ヴァッレ教会に逃げ込んだところからこのオペラが始まる。トスカとカヴァラドッシは恋人同士。カヴァラドッシはアンジェロッチの友人で彼を匿う。警視総監スカルピアは政敵のアンジェロッチを追う。またトスカを一方的に恋し、トスカにカヴァラドッシとの逃亡と引換に彼女の体を求めるが・・・

コスタンツィ劇場は、1880年11月建築起業家ドメニコ・コスタンツィの不屈の夢の結晶として建築されました。当初は国の支援もなくコスタンツィ自身の経済的、組織的努力によってのみ運営されました。とりわけ1890年に初演されたピエトロ・マスカーニの「カヴァレリア ルスティカーナ」と、1900年に初演されたジャコモ・プッチーニの「トスカ」により、世界的な名声を得るに至ります。1926年には、ムッソリーニの遺言によりローマ市がコスタンツィ劇場を購入し「王立オペラ劇場」に、1946年には新生イタリア共和国の傘下に入り、現在の「ローマ歌劇場」へとつながります。

～あらすじ～ 第1幕

ローマの聖アンドレア・デラ・ヴァッレ教会。政治犯のアンジェロッチが、慌しく駆け込んで来る。彼は妹に牢番を買収させ、脱獄したのである。そして妹が隠して置いた、礼拝堂の鍵を探し出すと、その中に逃げ込む。すると画家のカヴァラドッシがあらわれ、カンバスの覆いをとって、マグダラのマリアの像を描き始める。モデルは、アンジェロッチの妹である。



聖アンドレア・デラ・ヴァッレ教会内部

モデルの美女と彼の恋人、歌姫のトスカを比較してうたう、アリア「妙なる調和」。すると礼拝堂から、隠れていたアンジェロッチが姿をみせ、旧友のカヴァラドッシと顔を合わせる。そして友達の脱獄を知ると、その彼を助けるべく、昼食に用意した食べ物とワインを与えて、自分の別荘に潜伏するように勧める。

そのとき外部からトスカの呼ぶ声がするので、再びアンジェロッチを礼拝堂に隠す。入って来たトスカは人のいた気配がするので、モデルの美女と逢引していたのではと、疑いをかけて嫉妬するが、カヴァラドッシは絵の中の美女よりも、君の方が何倍も美しいとなだめて、彼女を外に送り出す。間髪を入れずアンジェロッチを連れ出すと、隠れ家への道筋と、何かあれば古井戸に隠れるよう指示するが、そのとき政治犯の脱獄を知らせる大砲が鳴り響き、急いで2人は教会を後にする。そこへ堂守があらわれ、カヴァラドッシがいらないのを不審がっているところへ、信者や聖職者がやって来て、ナポレオンが大敗したという話題で盛り上がる。突然警視総監のスカルピアが、大勢の警官を従えてあらわれ、政治犯が脱獄してこの教会に逃げ込んだとあって、特に入念にアッタヴァンティ家の礼拝堂を捜査するように命じる。部下のスポレッタは礼拝堂から、アッタヴァンティ家の紋章の入った扇と、昼食用のバスケットを見つけて来る。また画架の聖女の顔が、彼の妹とそっくりなのに気付いて、スカルピアは彼がここへ逃げ込んだと確信する。そこへ何も知らないトスカが戻って来て、今夜は祝賀会でうたうことになり、デートは中止だと告げに来たのに、カヴァラドッシがいないのでがっかりする。するとスカルピアはトスカに近付き、例の扇をみせつけて彼女の嫉妬心を煽り立てる。彼女は彼が例のモデルの美女と、別荘で逢引しているかも知れないと疑い、現場に直行しようという。スカルピアはすぐにスポレッタを呼び、トスカを尾行するように命じる。彼はにんまりとほくそ笑み、トスカよお前の心の中には、このスカルピアが住み着いたぞと独り言をいう。オルガンが鳴り響いて、枢機卿の行列が通り過ぎる。聖歌隊は「テ・デウム」をうたい、祝砲と鐘が響き渡る。そして枢機卿は人々に祝福を与え、大合唱が大きく盛り上がる。スカルピアはカヴァラドッシを逮捕し、トスカを我がものにしようと決心する。

第2幕

ファルネーゼ宮殿の一角。スカルピアが夕食をとっているところへ、カヴァラドッシが重要参考人として連行されて来る。窓の外からは戦勝祝賀会でうたう、トスカの歌声が聞こえている。警視総監は数々の証拠を挙げて、カヴァラドッシを攻め立てるが、彼は頑として口を割らない。心配して駆けつけて来たトスカがあらわれると、スカルピアはカヴァラドッシを拷問室に入れて、激しい拷問を加えて、逆にトスカをからめ手から責める。ついに彼女は愛する男の悲鳴を聞いて、「庭の井戸の中に」と自白してしまう。それを知ったカヴァラドッシは、口惜しさの余り悶絶してしまう。



ファルネーゼ宮殿

絶望した彼女は有名なアリア、「歌に生き、愛に生き」をうたって自らの非運を嘆く。そしてトスカはスカルピアの要求に屈して、愛するカヴァラドッシのために、身を犠牲にしようと決心する。それを聞いたスカルピアは部下のスポレッタに、パルミエリ伯爵のときのように、ほんの形式のみの銃殺にしようにと命ずる。部下が下がるとスカルピアは、彼女に襲いかかろうとするが、彼女はカヴァラドッシが自分と、国外に脱出出来るよう許可証を書いてくれと要求する。仕方なしにスカルピアは、それを書くために机に向かう。そのとき彼女は食卓のナイフに気付き、素早くそれを後ろ手に隠す。スカルピアは約束どおり許可証を書き、さあこれでお前は俺のものだと、両手を広げて抱きつこうとした瞬間、トスカの手にしたナイフが、深々とスカルピアの胸に突き刺さる。「これがトスカの接吻よ」、スカルピアは助けを求めるが、その場に倒れ間もなく絶命する。トスカはスカルピアの手から、許可証を奪い十字架を死体の胸に置き、頭の両側に蜀台を置いて、そっと忍び足で部屋の外へ去って行く。

そこへ伝令の報告で、戦いに勝ったのはナポレオンの方だと分かり、カヴァラドッシは元気を取り戻し、スカルピアを罵倒するので、激怒した警視総監は彼を牢に収監するよう命令する。トスカとスカルピアの2人だけになると、彼女は恋人の命を助けるよう懇願するが、その代償としてスカルピアはトスカの体を要求する。

第3幕

夜明け前のサンタ・アンジェロ城の屋上。羊飼いの少年の歌が聞こえ、そこへ銃殺刑のため、カヴァラドッシが連行されて来る。彼は看守に指輪を与えて紙とペンを貰い、愛するトスカへの手紙を書こうとする。楽しかった思い出を回想しているうちに、ついに感極まって号泣する。



サンタ・アンジェロ城

全幕の中で最も有名なアリア、「星も光りぬ」がここでうたわれる。そこへトスカがやって来て、今までの経過の一部始終を報告して、出国許可証をみせながら、この手でスカルピアを殺したこと、銃殺は形式だけだと説明する。兵士たちがあらわれ、処刑の準備が完了する。4時の鐘が鳴って所定の位置に兵士たちがつき、轟然と銃が一斉に火を吹き、目隠しされたカヴァラドッシが倒れる。兵士たちは検視を終え、死体にマントをかぶせて整然と行進しながら去る。じっと見守っていたトスカは、遠くからまだ動いては駄目よと声をかけ、さあマリオ早く逃げまじょうと、彼の体を揺さぶる。だが彼の体は、石のように動かない。慌ててマントを剥ぎ取ると、カヴァラドッシの胸は朱に染まっている。銃殺刑は、形式だけだったのではなかった。彼女は絶叫して、その場で死体に取りすがる。すると大勢の兵士たちが、城壁の階段をかけ昇ってくる。彼らはスカルピアが殺された、殺したのはトスカだ、捕まえろとロ々に叫んでいる。彼女は追い詰められ、スポレッタに捕まりそうになるが、一瞬彼を突き離して城壁にかけ登り、おおスカルピアよあの世でと叫んで、空中に身を躍らせる。兵士たちは驚いて、城壁から下を見下ろすところで幕になる。 出典：モバイル音楽事典(C) 出谷 啓



ローマの休日～サンタンジェロ城

不滅の名作映画「ローマの休日」のクライマックス。船上でのダンスパーティー会場は、サンタンジェロ城と呼ばれる、ここハドリアヌス霊廟の目前です。パーティーに母国の秘密警察の一団が現れ、アン王女を連れ去ろうとして大乱闘となります。アン王女は記者のジョーと共に川に飛び込み対岸へ逃れます。その後アン王女は、ジョーと別れ、密かに宮殿に戻るのでした。

日本橋オペラでは2021年の「お菊さん」から、これまで「日本初演のオペラ」シリーズとして5作品を上演しています。公演の映像はYouTubeで公開され、また上演に際して研究・修復された楽譜はIMSLP(ペトルッチ楽譜ライブラリー)で無料公開されています。



「お菊さん」 桂ヨネスケ師匠と記念撮影 音二郎と貞奴のダンスの再現

第1回 2021年5月 メサジェ「お菊さん」(日本橋劇場)

第2回 2021年12月 ヴェルディ「貞奴姫」(日本橋劇場)

2021年に日本初演したメサジェ「お菊さん」は日本橋オペラにとっても記念碑的な公演でした。プッチーニ「蝶々夫人」の基になったオペラを紹介しただけでなく、お菊さんの出生等の研究成果はYouTubeに公開されています。また同年秋には、日本橋出身の川上貞奴の生誕150年を記念して「貞奴姫」を上演しました。この作品の音楽はヴェルディ「椿姫」ですが、史実に基づき、貞奴と福沢桃介との恋愛をヴィオレッタとアルフレード、そして福沢諭吉をジェルモンに置換え、さらに第3幕は俳優養成所の開所式での渋沢栄一の演説を桂ヨネスケ師匠が再現しました。



「グスターヴォ三世」 「カヴァレリア・ルスティカーナ」 「レオノーレ」

第3回 2023年11月 ヴェルディ「グスターヴォ三世」(日本橋劇場)

第4回 2024年5月 モンレオーネ「カヴァレリア・ルスティカーナ」(日本橋劇場)

第5回 2024年10月 ベートーヴェン「レオノーレ」(銀座ブロッサム)

1792年ストックホルムのオペラ座で、スウェーデン国王グスタフ3世が狙撃され暗殺された事件に靈感を受けたヴェルディは「グスターヴォ三世」を作曲しますが、当局の検閲により上演が拒否され、しかたなく舞台と登場人物を変えて「仮面舞踏会」として、今日一般に上演されています。昨年5月にはもう一つの「カヴァレリア・ルスティカーナ」、ドメニコ・モンレオーネ「カヴァ」を日本初演しました。昨年11月にはベートーヴェン「レオノーレ」を日本初演しました。楽聖と言われるベートーヴェンのオペラが、これまで日本で上演されてこなかったのは不思議な気持ちでしたが、上演しての感想は、よく知られる「フィデリオ」もいいけれど、「レオノーレ」は勝るとも劣らない、ベートーヴェンが心を込めて作曲したオペラだと思いました。これらは日本初演と同時にすべてアジア初演でもあり、日本橋オペラは「黄泉の国の大作曲家」業界では評判のようです！

日本橋オペラ2025

歌劇「トスカ」全3幕

(セミステージ)

作曲／ジャコモ・プッチーニ

世界初演／1900年1月14日 ローマ・コンスタンツィ劇場

台本／ジュゼッペ・イッリカ、ルイーダ・ジャコーザ

イタリア語上演 ピアノ伴奏版

時／2025年5月3日(土・祝)14:30開演

会場／王子ホール(銀座四丁目)

演出・公演監督／福田祥子

指揮／佐々木 修

ピアノ／追川礼章

クラリネット／平井哲夫

打楽器／天野佳和

《配役》

福田祥子／ソプラノ／トスカ

松村英行／テノール／カヴァラドッシ

寺田功治／バリトン／スカルピア男爵

奥村泰憲／バリトン／アンジェロッティ

香月 健／バリトン／堂守

中野智貴／テノール／スポレッタ

服部聖人／バリトン／シャルローネ&看守

伊藤いずみ／ソプラノ／羊飼役

《スタッフ》

舞台監督／菅野 将

衣裳／てっしー

ヘアメイク／リュクエミール

稽古ピアノ／鈴木架哉子、松岡なぎさ

全席指定席／8,000円

主催：日本橋オペラ研究会(中央区社会教育団体)

共催：一般社団法人日本橋オペラ研究会

日本橋オペラ後援企業(2025年5月1日現在)

TOYOBO

AIKU HOSPITAL
UNIVERSITY OF MEDICINE & DENTISTRY

Korino.I

医療法人
小池医院

ANYTIME
HEALTHCARE CONSULTING

みずが
隆